

JCO 臨界事故 23 周年集会

10月1日行われたJCO臨界事故23周年集会に参加させていただきました。

JCO 臨界事故は、私が当時2歳の時に起きた事故でした。現場で作業をしていた社員3名が致死量の放射線を浴び、内2名が急性放射線障害により死亡。また、周辺住民ら600名以上の方が被爆し、周辺住民も30万人が屋内退避したという話を受け、とても悲惨な事故が起きていたのだと改めて実感しました。

私は、核と人間の共存は出来ないんだなと思いました。福島第一原発の事故もそうですが、この様な危険な事故が起きているのに、再稼働に向けて行動していることがなぜだろうと疑問に思いました。

事故が起きてからでは取り返しがつかないと感じました。そのことをこれから発信していく私たち若い世代が興味、関心を持ち、これからの明るい未来を切り開いていく為にもたくさん勉強しなければいけないなと思いました。

また、**風化させないのは勿論の事、廃炉を勝ち取れるよう**これからも仲間と団結して頑張っていきたいと思えます。

全港湾東北地方ひたち支部青年女性部 幹事 菊池 優介



壇上に上がり集会アピール発表
発表者：ひたち支部青年女性部 部長 木村貴弘



左から、栗原、志賀、榎、末安、菊池、根本



22 秋年末闘争中央オルグ



10月18日(火)17時より、釧路港湾福利厚生会館において、中央本部より鈴木誠一委員長が来道し、22秋年末闘争中央オルグを開催しました。コロナ禍の中ではありますが釧路支部組合員37名が参加しました。

当日は、川村委員長がコロナに感染し、急遽欠席となりましたが、鈴木委員長から秋年末から23春闘のたたかいの方針を提案していただき、物価上昇の中、賃上げが大事だと話されていました。

また、翌日19日(水)には留萌へ移動し、2027年の奈井江・砂川発電所廃止に伴う情勢など会社と意見交換し、6年ぶりになる留萌支部でのオルグを開催しました。貴重な話から始まり、最後には、支部組合員へ気合いを入れて頂くために、鈴木委員長に団結ガンバローを行っていただき、これからの諸問題解決に向けて組合員一同意思を固めました。

翌日20日(木)には北海道港運協会(小樽)に足を運び、協会と北海道地方本部が情報の共有が必要だと訴えてきました。

コロナウイルス終息も見えない中ですが、秋年末闘争勝利に向けてたたかっていきましょう!

北海道地方本部 書記次長
川奈部若之

留萌支部

釧路支部

